

国際協力事業団

ドミニカ共和国環境天然資源省

ドミニカ共和国

サバナ・イエグア・ダム上流域
流域管理計画調査

住民参加型計画策定マニュアル

2002年7月

JICA LIBRARY



J1169245(6)

ドミニカ共和国サバナ・イエグア・ダム上流域
流域管理計画調査共同企業体

社団法人 日本林業技術協会

太陽コンサルタンツ株式会社

農調林

J R

JICA

608

884

AFF

IBRARY

第1章 本マニュアルについて.....	1
1－1 本マニュアルの目的.....	1
1－2 本マニュアルの対象者.....	1
1－3 本マニュアルの構成.....	1
第2章 一般編：参加型計画策定ツール.....	2
2－1 社会経済概況調査.....	2
2－1－1 調査の特徴・種類.....	2
2－1－2 調査のプロセス.....	2
2－1－3 調査実施上の留意点.....	2
2－2 RRA 調査.....	3
2－2－1 調査の特徴・種類.....	3
2－2－2 調査のプロセス.....	4
2－2－3 調査実施の留意点.....	4
2－3 PRA 調査.....	5
2－3－1 調査の特徴・種類.....	5
2－3－2 調査のプロセス.....	6
2－3－3 調査実施上の留意点.....	7
第3章 実践編：対象地域への導入.....	8
3－1 住民参加型流域管理計画の流れ.....	8
3－2 実施方法およびその留意点.....	10
3－2－1 住民組織形成期.....	10
3－2－2 住民組織強化期.....	11
3－2－3 住民組織発展期.....	18
APPENDIX.....	19



1169245[6]

第1章 本マニュアルについて

1-1 本マニュアルの目的

本マニュアルは流域管理計画の実施において、地域住民の主体的かつ積極的な参加を促進するための各種ツールや事業推進に際して留意すべき点を紹介する目的で作成されたものである。

本マニュアルは、一般的なツール紹介は基本情報にとどめて、より現地の事情に対応した実施方法とその留意点を紹介することを目的とした。そのためマニュアルにおいて記載されている実施方法については、村落事業（対象地域内6村にて2001年6月から12月に実施）での経験がベースとなっており、留意すべき事項等も実際の地域住民とのやり取りの中から生まれたものである。

1-2 本マニュアルの対象者

本マニュアルは実際に現地で住民とともに事業を推進してゆく役目を担う地方森林管理局、森林管理署の職員、普及員、さらに協力関係が考えられる NGO や国際コンサルタントを対象として作成されている。

1-3 本マニュアルの構成

本マニュアルは前段である第1章を除いて、大きく二部から構成されている。第2章ではマニュアルの参加型計画策定のために利用する一般的なツールについて、その内容や特徴について説明している。また第3章では対象地域での実施を考えた際に、事業実施者として留意すべきポイントおよびその実施方法について、村落事業の結果等を引用しながら述べている。

第2章 一般編：参加型計画策定ツール

2-1 社会経済概況調査

2-1-1 調査の特徴・種類

一般に調査対象地の社会経済面の概況把握を目的として、調査のごく初期に実施される。本手法は調査対象地を広く定量的に把握することに主眼を置いた手法であり、対象地の全般的な傾向、基本情報を押さえる目的において有効な手法である。これら調査から得られた情報は地域の概況的な把握に有用であるとともに、プロジェクト候補地を絞り込む際のデータ提供、また将来的なプロジェクト評価を見据えた際のベースラインデータとしての役割を果たすことも可能である。

調査はその質問票の収集方法から下記の2種類に分類される。一般的には時間的・人的制約があることから「標本調査」かつ「個別面接法」を採用することが多く、村落事業においても同様の手法を採用した。

対象範囲による区別		質問票収集方式による区別	
全数調査	母集団全体が対象	個別面接法	調査員が直接面談する方式
標本調査	抽出された母集団の一部が対象	留め置き法	住民自ら質問票を記述して、後日調査員が回収する方式

2-1-2 調査のプロセス

調査は以下のプロセスを経て実施される。

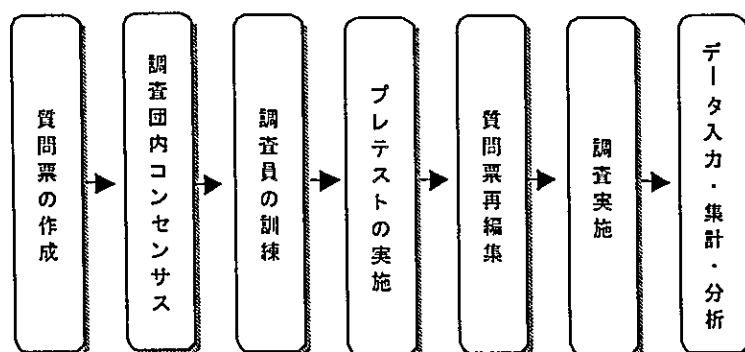


図2-1：社会経済概況調査実施プロセス

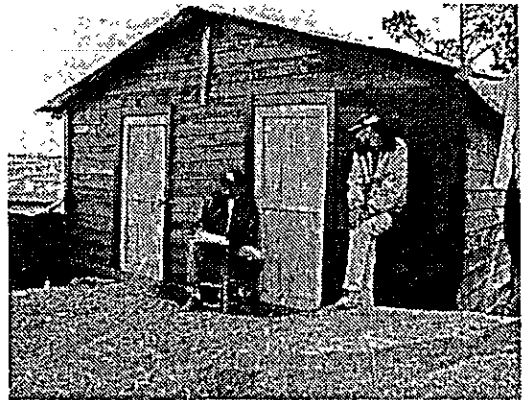
2-1-3 調査実施上の留意点

実施前における重要な活動は、「調査員の訓練」と「プレテストの実施」である。本調査手法

の利点のひとつは、定型の質問票を利用するために調査員の力量を問わずに実施が可能であると一般的にはされている。しかしながら、実際には仮に選択肢を選ぶ調査項目であったとしても、調査員の質問の仕方、回答者に対する態度等で収集される情報は事実から大きく乖離することにもなりかねない。そのため業務実施者は調査員とともに質問票の意図を確認しあうとともに、特に経験が不足している調査員に対しては事前の訓練を実施することが不可欠である。

後述の RRA や PRA では調査員の技量の重要性を発注者側も理解していることや携わる調査員が比較的少数になることから、調査状況の監督も比較的容易であるが、反面質問票調査は多くの調査員が一斉に質問票の収集を始めることから、コントロールが利きづらくなる面があることも念頭に置く必要がある。

また調査員の訓練とともに、プレテストの実施によって住民が答えづらい質問、理解されない質問を把握し、調査項目の見直しを行なうことも重要である。



2-2 RRA 調査

2-2-1 調査の特徴・種類

「簡易農村社会調査(RRA : Rapid Rural Appraisal)」手法は、住民との直接対話を通して地域の社会経済状況を調査するものである。本手法は前述の質問票を主体とした「社会経済概況調査」が定量的であると解されているのとは対照的に、インタビューによる情報収集を基本としていることから定性的な情報が収集されることが特徴として挙げられる。

RRA 調査は主に以下の「インタビュー」と「視覚的ツール」の二分野から構成される。

(1) インタビュー

(インタビュー手法)

① セミ・ストラクチャード・インタビュー

事前に質問内容を固定化せずに、聞きたい項目のみをリスト化したうえで望む形式のインタビュー

(インタビュー対象)

① コミュニティ・インタビュー

村長などのリーダー層を対象として実施する。村全体の概観を把握することを目的とする。

② グループ・インタビュー

女性グループや青年グループなどの枠組みを設けてインタビューを実施する。全体集会時には発言しづらくなる女性等の意見を聴取することが目的である。

③ 世帯インタビュー

リーダー層の世帯に限定することなく、村落内の一般的な世帯に対してインタビューを実施する。

(2) 視覚的ツール

視覚的ツールは村落全体を理解するために、インタビューから得ることが困難な情報を獲得するために実施するものである。なお RRA と後述する PRA では使用するツールは同様のものが多く、どちらが RRA、PRA といった綿密な区分けは無い。そのため具体的なツール紹介は次項の PRA に記載する。

2-2-2 調査のプロセス

調査は以下のプロセスで実施される。

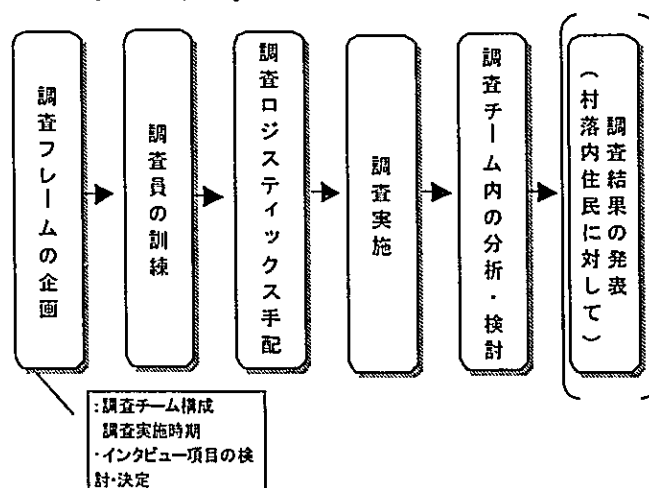


図 2-2 : RRA 調査実施プロセス

2-2-3 調査実施の留意点

RRA 調査は異なる分野の専門家から構成される調査チームによって実施することが重要である。このことによって、調査に多角的な視点が確保され、調査精度を高めることが可能と考えられるためである。

また実施中の留意点としては、得られた情報が当初予定していた必要情報を網羅しているかを定期的に確認することである。そのため調査期間中は、調査チーム内での内容確認ミーティングを逐次実施する必要がある。この内容確認は、聴取する情報が無限に広がる可能性を持つセミ・ストラクチャード・インタビュー形式の盲点に陥らないために必要な作業である。

これらの例からも分かるように、本調査手法においては調査員の能力が調査の成否を握っていることは改めて言うまでも無い。

2-3 PRA 調査

2-3-1 調査の特徴・種類

PRA(Participatory Rural Appraisal)の最大の特徴は、調査の実施主体が地域住民に在る点である。調査自体は RRA 手法で利用する視覚ツールと同様のものも多いが、調査の根元的な思想という点で、RRA があくまでも外部者（調査チーム）のための情報を収集することに最重要点が置かれていることとは対照的に、PRA は調査そのものを住民が実施し、かつその過程で住民自身の問題意識、開発意欲の共有にまで昇華することを目的としている点が大きく異なっている。PRA 調査は主に以下の内容から構成される。

(1) 視覚的ツール

視覚的ツールは村落全体を理解するために、インタビューから得ることが困難な情報を獲得するために実施するものである。下記は全てを必ず実施する必要があることを意味するのではなく、状況に応じて取捨選択することが肝要である。

① 農業カレンダー

農繁期や栽培作物の確認等が可能である。

② 村落地図

村の広がりをはじめ、土地利用状況や村落における資源(灌漑施設、井戸など)の分布を知ることができる。また盛り込んでもらう情報によっては、土地所有の偏在等の情報入手することも可能である (Appendix 1 参照)。



③ 組織ベン図

村落に関わりのある組織を位置および距離を含めて図示することで、村落と組織の

関係を把握する。また村落内に存する住民組織を把握することにも大いに有用である (Appendix 2 参照)。

④ トランセクトウォーク

村落内を地域住民とともに歩き、村落内の資源分布、土地利用、営農形態等を確認するとともに、村落地図から読み取ることが出来なかった事象を発見することも目的とする (Appendix 3 参照)。



⑤ 村落歴史年表

村の長老を中心として、村の歴史年表を作成する。移住の歴史や伝統的習慣の変化を見てとることができるとともに、現在の変化(流域荒廃等)をもたらした原因を読み取ることができる可能性も高い (Appendix 4 参照)。

⑥ 富裕度ランキング

村落内の富裕者層をランキングすることによって、逆に貧困層の貧困レベル、分布等が明らかになる。また村落の考える「富裕」の尺度を知ることによって、調査チームも村落へのアクセス方法の検討に役立てることが可能である。

⑦ ニーズランキング

住民ニーズの優先順位が明確化されることが何よりも重要な目的であるが、同時に何故それらが必要なのか、今まで何か具体的な行動は起こしてきたのか等にも議論を発展させ、問題意識の共有化を図ることが可能である (Appendix 5 参照)。



2-3-2 調査のプロセス

調査は以下のプロセスで実施される。

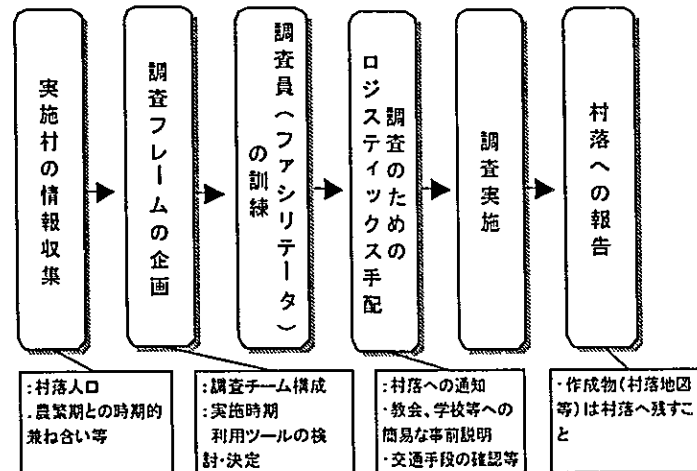


図 2－3：PRA 調査実施プロセス

2－3－3 調査実施上の留意点

● 調査実施者側の体制

PRA 調査では、調査チームはあくまでも「外部」のファシリテータであり、地域住民が主人公であるとの大原則がある。しかしながら現実には、ある程度の部分を調査チームが牽引する必要に迫られることが多い。例えば PRA の議事進行役は村落住民が理想であるが、彼らをトレーニングする時間が現実的には無く、外部ファシリテータが代役することは現実によく起こることである。このような場合は、議事進行を調査チーム側がファシリテートするが、サブ・ファシリテータとして村落内の住民に必ず参加してもらうなどの工夫をすることが重要である。調査チームは限られた時間的・人的制約の中から常に現場に即した工夫を施し、住民を「観客」にしないことが何よりも求められる。

● 視覚ツールの取捨選択

多彩な各種ツールの中から、村の特性などと照らし合わせながら利用すべきツールを取捨選択してゆくことが重要である。例えば富裕度ランキングは調査チームにとっては非常に貴重な情報源となりうるが、住民側にとっては性格的に受け入れられない調査内容であることは十分に考えられる。

また参加者を飽きさせない工夫も必要である。村落事業では「村落歴史年表」の際に、「昔流行した踊り」の項目を入れて、実際に村の人々に踊ってもらうなどの工夫を入れた。

第3章 実践編：対象地域への導入

3-1 住民参加型流域管理計画の流れ

住民参加型の流域管理計画においては、村落内の住民組織の形成およびその発展が円滑な計画実行のための必要条件と考えられる。そのため住民参加型の流域管理計画を実行することは、住民組織の強化を図っていることと同義であるとみなすことも可能である。

本項では住民組織強化の流れをベースとして、その際に業務実施者が行なうべき行動、またその際の留意点について述べることとする。

図は住民組織強化をベースとした住民参加型流域管理計画の流れを図示したものである。

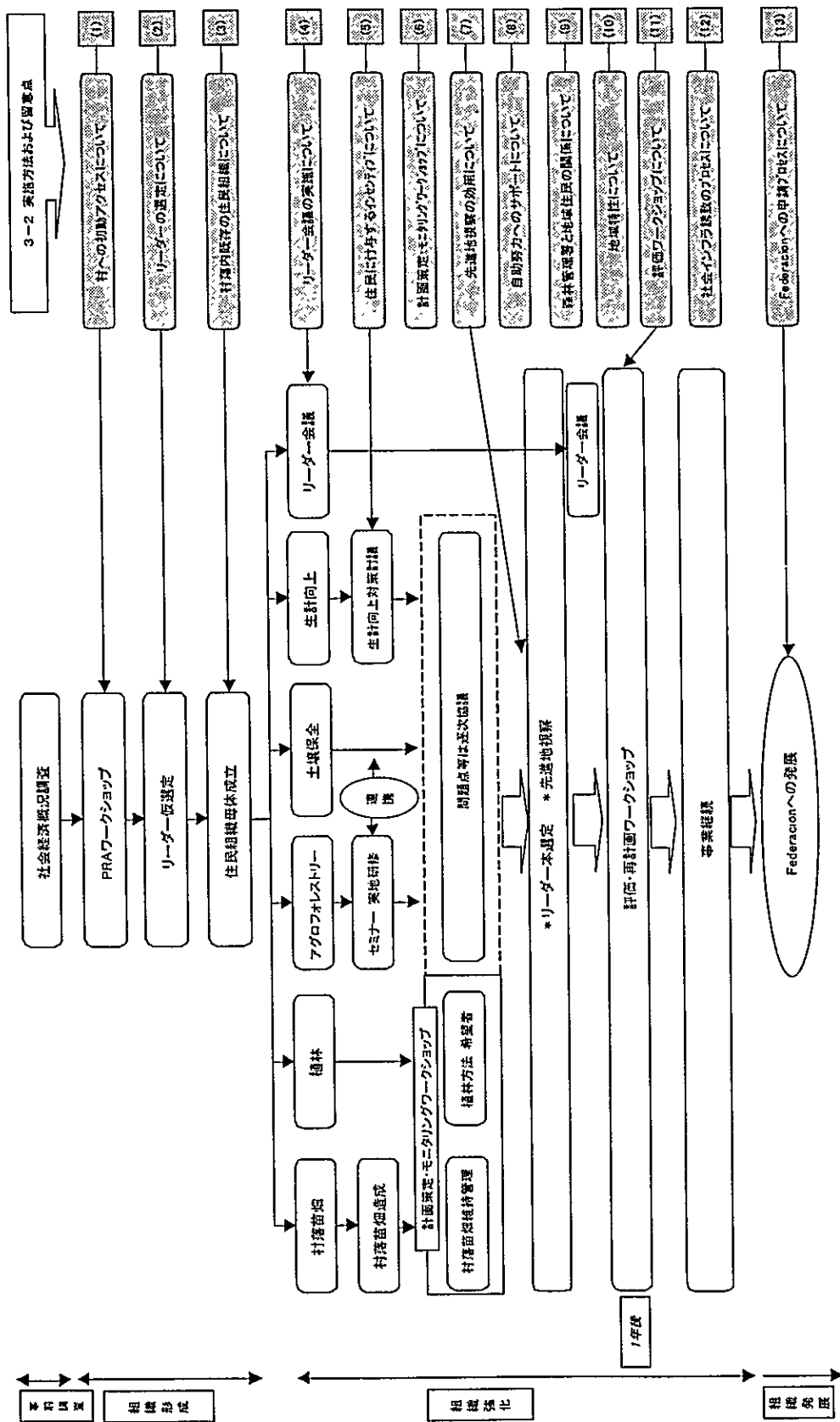


図 3-1：住民参加型流域管理計画の流れとその留意点

3-2 実施方法およびその留意点

本項では各事業実施にあたっての実施方法とその留意点について述べる。後述の全項目は図3-1の流れと符合しており、如何なるタイミングで行なわれている活動であるかは図を参照することで分かる構成となっている。

3-2-1 住民組織形成期

村落への初めての本格的な接触としては、PRA手法を利用した村落ワークショップの開催が考えられる。本項ではその際の留意点について述べる。

(1) 村落への初動アクセスについて

村落での初会合を開く際には、政治的にニュートラルである学校や教会などを経由して、村落内の召集を行なうことが望ましい。最初の窓口を政治的にニュートラルかつ住民からの信頼が厚い学校や教会にすることで、排他性を持たないオープンな集団母体から組織形成をすることが可能となる。また同時に学校や教会と村落への初接触時から関係しあうことで、将来的な事業実施の際の強力なサポーターを確保することにも繋がることが期待できる。

ただし教会は独自に地域での社会活動を行なっていることから、これらの活動内容との重複があった際には、十分な調整も必要とされる点には注意が必要である。

(2) リーダーの選定

選定されるリーダー（6人から10人程度）は、事業実施の際に「連絡係」としての役割も期待されることを考慮して、住居が地理的に村の北部、南部、中央部という具合に分布することが理想である。またリーダーは中高年の男性のみにならないように、女性や青年層のリーダーも選抜されるように支援することも重要である。

また重要な点は、この時点で選定されたリーダーは仮リーダーとして位置づけ、ワークショップの熱が冷めた後日、住民自身でリーダー選定を再度実施することが望ましい。これは最初のリーダーが必ずしも積極的な事業参加者になるかは不透明であることから、ある程度の活動実績を見定めたうえでリーダー選定を行なうほうがより適切な選定が可能と考えられるためである。

(3) 村落内既存の住民組織について

村には様々な住民組織が存在しており、村によっては組織間で様々な政治的利害関係があることも考えられる。この点を考慮して、事業の受け皿は村落内の既存の住民組織

とするのではなく、村落内に広く声をかけて新たな枠組みを対象にすることが、公平かつ広範な住民参加を促すために重要と考えられる。しかしながら、実際には事業開始後、徐々に同じ政党支持者同士が勢力を占めることも十分に考えられる。事業実施者としては、常に公平性を保ち、排他性を持たない組織作りに留意する必要がある。

3-2-2 住民組織強化期

村落ワークショップ後、事業の本格的な開始に伴い、多くの活動項目および留意事項がある。本項では事業開始後、1年後の評価ワークショップの実施までに実施する活動の実施方法およびそれらの留意点を挙げる。

(4) リーダー会議の実施について

リーダー会議は下記の要領で実施する。

項目	内容				
実施目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーとしての自覚を高めること ・ 計画策定・マネジメント能力の向上 ・ 他村との情報交換を通して自村の村落事業進捗の状況を見つめなおす機会を提供すること ・ 他村との連携のきっかけ作りとなること 				
参加者	各村リーダー（6-10名）				
参加村落数	5村落（普及計画の1地域を単位）				
実施時期	年2回程度				
実施時間	約半日				
実施場所	5村落での持ち回りが理想				
実施内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>第一回目</th><th>第二回目</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ① 村落自己紹介 ② ディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーの役割 ・ リーダーとして直面している問題 ③ 計画策定デモンストレーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 各村でトピックを決めて、計画策定フレームを埋める(練習としての要素) ・ トピックは以前に行なったPRAワークショップのニーズランキングから採用 ④ プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 各村ごとに上記の結果をプレゼンテーション ・ 他村からの参加者がコメント、討議 </td><td> ① 第一回目③での計画策定について、実施状況の確認→発表 ② ディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域内での懸案事項等を取り上げて実施(例：焼畑の原因と対策について) ③ プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加村での村落開発に対する取り組み・経験について(例 ロス・フリオス村での診療所誘致成功の道程について) </td></tr> </tbody> </table> <p>注：第三回目以降は村によってトピックを定めること。</p>	第一回目	第二回目	① 村落自己紹介 ② ディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーの役割 ・ リーダーとして直面している問題 ③ 計画策定デモンストレーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 各村でトピックを決めて、計画策定フレームを埋める(練習としての要素) ・ トピックは以前に行なったPRAワークショップのニーズランキングから採用 ④ プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 各村ごとに上記の結果をプレゼンテーション ・ 他村からの参加者がコメント、討議 	① 第一回目③での計画策定について、実施状況の確認→発表 ② ディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域内での懸案事項等を取り上げて実施(例：焼畑の原因と対策について) ③ プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加村での村落開発に対する取り組み・経験について(例 ロス・フリオス村での診療所誘致成功の道程について)
第一回目	第二回目				
① 村落自己紹介 ② ディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーの役割 ・ リーダーとして直面している問題 ③ 計画策定デモンストレーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 各村でトピックを決めて、計画策定フレームを埋める(練習としての要素) ・ トピックは以前に行なったPRAワークショップのニーズランキングから採用 ④ プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 各村ごとに上記の結果をプレゼンテーション ・ 他村からの参加者がコメント、討議 	① 第一回目③での計画策定について、実施状況の確認→発表 ② ディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域内での懸案事項等を取り上げて実施(例：焼畑の原因と対策について) ③ プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加村での村落開発に対する取り組み・経験について(例 ロス・フリオス村での診療所誘致成功の道程について) 				
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加するリーダーの読み書き能力は問わないこと（村落事業で自分の 				

	<p>読み書き能力が劣ることを理由に、高校生等の代理を立てた例が散見された)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記と同時に、リーダー間のディスカッションに特に重点をおくこと ・ 事業内外において新たな取り組みや成功体験を有する村のリーダーに、それらの経験を話してもらうこと（他村にとって刺激となることが期待される） ・ ファシリテータは村同士の交流が生まれるように、座る位置や会場設定等に留意すること ・ 実施場所は、村落間でのローテーションを基本とする。その際に各村における村落苗畑、展示林プロット等、事業の実施状況を相互に見学する機会とすること ・ リーダーの交通手段の調整が必要
--	--

（５）住民に付与するインセンティブ（生計向上対策）について

生計向上対策として流域管理計画では動物飼育の導入（山羊、羊、豚、兎が候補）を計画している。重要なことは、これら動物飼育の導入は売買による収入向上や栄養改善のみを目的とするわけではなく、村落での組織行動につなげることを同時に目的としている点である。そのため導入に際しては、事業開始直後に行なうのではなく、住民組織の活動状況が一定レベルに達していることを確認した後に導入を開始し、さらなる組織強化へと繋げるといった戦略的な導入を考えることが重要である。

なお導入に関する諸条件は住民との話し合いで決定されるものであるが、以下に導入条件として考えられる試案を記載する。

動物	導入対象	導入条件
山羊	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山羊は多くの村落において放し飼いに拠る農作物被害の問題がある。そのためこの点に関するルールを住民組織内で作成、徹底すること ・ グループによる囲い柵の設置、餌やり、販売時の利益配分等の共同飼育に関するルールの設定を行なうこと ・ シルボパスチャーの導入を「アグロフォレストリー」普及員とともに図る ・ （パドレ・ラス・カサス地域では飼育経験豊富。初試行というリスクは殆ど無い）
羊	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山羊と同様
豚	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飼育および売却後の利益配分等に関するルールづくりを行なうこと ・ 予防、病気になった際の注射代等、予期しうる経費配分を考慮したルール作りを行なうこと
兎	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・ （兎は他の動物に比べて飼育が容易であることから個人ベースの展開が考えられる） ・ 住民組織内での技術交換、市場情報交換等の体制作り

（６）計画策定・モニタリングワークショップについて

計画策定・モニタリングワークショップは以下の要領で実施する。なお村落事業での実施結

果例（村落苗畑）は Appendix 6 および 7 参照。

	計画策定ワークショップ	モニタリングワークショップ
目的	<ul style="list-style-type: none"> 住民組織の計画策定能力の向上 組織活動の促進 自助努力意識の喚起 	<ul style="list-style-type: none"> 住民組織の計画策定能力の向上 組織活動の見直し、促進 (事業実施者側の目的)地域住民の活動計画阻害要因の分析
実施形態	<ul style="list-style-type: none"> 簡易なマトリックスを利用 題材は「村落苗畑」、「植林」等が考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> 簡易なマトリックスを利用 計画策定ワークショップでの活動計画項目が少ない場合、車座での集会形態でも実施可能
実施者	<ul style="list-style-type: none"> NGO 等のファシリテータによって進行（サブファシリテータとして住民の参加が必要） 	<ul style="list-style-type: none"> NGO 等のファシリテータから住民自身がファシリテータとなることが理想
実施時期	事業実施初期	適宜（農繁期は難）
実施内容	① 期待する成果 ② (成果を達成するうえでの)阻害要因 ③ (①、②を考慮したうえでの)必要な活動 ④ 達成時期 ⑤ 担当者(各活動 2 名ずつ)	① 実行したこと ② (実行しなかった場合)実行を妨げた阻害要因 ③ 次回への改善点、教訓 ④ (上記を見直したうえでの)新たな活動 ⑤ 達成時期 ⑥ 担当者
留意点	<ul style="list-style-type: none"> マトリックスを埋めることよりも、①組織行動を実施に移す際に陥りやすい問題点などの見通しを持てるようになること、②皆の参加意識を促すこと、③(ファシリテータを実施することを通して)リーダー層の育成に繋げることが重要 ワークショップ実施の際にはファシリテータは一部の積極的参加者の意見でのみ計画策定が行なわれないように留意する ファシリテータは第三者としての立場を利用して、住民同士では言いづらいことを代弁することも期待される（例えば、「私は毎日苗畑の管理をしているにもかかわらず、何もやっていない人にまで育った苗が配分されるのは納得がいかない等々」の意見もあることを開陳する等） 地域住民の「必要な資材が無いからできない」との意見に対しては、自分達の持っている資材で代用可能なものを利用して 	<ul style="list-style-type: none"> 活動計画は実際には予定通りに実施されていないことが多いことを念頭に置く。この場合、ファシリテータは事前の計画策定ワークショップで決められた実施担当者(各行動 2 名を予定)を非難する雰囲気にならないように留意する。 そのうえで何が活動を妨げ、どうすれば良いのか、を皆で考えることを重視する 住民主体の計画策定・モニタリングではあるが、あまりに現実的ではない計画に対しては、ファシリテータ側からどのように実施するつもりなのか、本当に必要なのか等、質問することで計画が実現性を持たせる方向に誘導することも重要である（例：当初案「苗畑を 1 ヶ月後までに 3 倍の規模にする」；修正案「まず苗畑参加希望者数を再確認する。そのうえで拡大規模を定める」等）

	<p>実施することを促すことが重要(→自助努力の意識を喚起すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークショップ後のフォローアップとして、住民の諸活動が徐々に成功体験へと結びつくように、サポートを行なうことが重要(特に外部関係機関との橋渡し) 	
--	---	--

(7) 先進地視察の効用について

先進地視察は参加者の意識変革を促す非常に有効な手段である。そのため先進地視察は効果的なタイミングで、多くの参加者を募って実施することが望ましい。また先進地視察には「日帰り視察」と「研修地への宿泊を伴った視察」が考えられる。

先進地視察の実施に対して、事業実施者としての役割は以下の点が挙げられる。

項目	留意事項
実施時期の調整	<ul style="list-style-type: none"> 実施時期は農繁期との重複がないようにすること 北部のコンスタンサ地域と南部のパドレ・ラス・カサス地域では農繁期が異なっている点に留意
参加者の意思確認	<ul style="list-style-type: none"> 参加者側に事前に見たいもの、および宿泊可能日数(家を空ける可能な日数)について意見を聴取し、受け入れ先の選定に活かすこと 参加者は住民組織内での決定に委ねることを基本とする。しかしながら以下の点に対する配慮も必要である <ul style="list-style-type: none"> ①中高年の男性のみならず、女性、青年層の積極的参加を促すこと ②参加者は村落内での普及活動に貢献することが期待されている点を確認すること(例:視察後に、見てきたものについて村落内で説明を行なう等)
受け入れ先との調整	<ul style="list-style-type: none"> 受け入れ先の負担を減らすためにも、可能な限り周辺村落と同時に訪問することで訪問回数を減らすことが望ましい 参加を表明していても最後にキャンセルする人々が少なからず出てくることも考慮
交通手段の手配	<ul style="list-style-type: none"> 人数を収容できるミニバス等の手配 遠隔地から合流する場合は、事前に都市部に来る等の準備が必要

(8) 自助努力へのサポート

事業実施者は住民組織が行なう能動的な各種活動に対して、情報および行政手続きの側面からのサポートを行なうことも重要である。特に村落では住民組織として行動を起こしたいと意識が高揚しても、何処の機関を訪問すればよいのか分からないことが多い。このような

場合に情報の提供、およびそれら各種機関への橋渡しとしての役割を果たすことが重要である。

地元 NGO へのアクセス

地域住民は事業実施の過程において、様々な問題やニーズの解決の可能性を求めて自主的に行動することが期待されるが、そのひとつの受け入れ先候補として地元 NGO が考えられる。業務実施者としては、それら NGO が村落の抱える問題・ニーズに応えられる可能性があることを教えるとともに、必要であれば NGO への接触をサポートすることが求められる。本地域では以下の NGO が活発な活動を展開している。

パドレ・ラス・カサス： CEPROS；サンファンには多数

コンスタンサ： Fundacion Contra Hambre；Progressio；Consejo Interinstitucional para el Desarrollo de Constanza, Inc. 他

果樹苗のアクセス

村落事業の結果から、住民の果樹に対する強いニーズを確認している。果樹苗は農業省の組織「PRODEFUD」から森林資源次省のレターを通せば、現状では無償での供与が可能となっている。事業実施者は果樹苗の獲得に際して PRODEFUD へのレター作成などの補助を行なうことが求められる。

森林管理署へのアクセス

植林事業実施、村落苗畑の維持等をはじめ、地域住民の森林管理署に対するニーズかつ期待は大きい。村落事業では村落内での植林事業の際に森林管理署からの苗運搬が滞ったこと、質の悪い苗しか村に供与されなかったことなどがあり、地域住民のニーズに円滑に対応しきれなかった面もある。住民からのニーズが大きいだけに、迅速な対応とともに森林管理署からの定期的な訪問が必要である（後述（９）「森林管理署と地域住民の関係について」を参照）。また植林に際して、「伐採証明書」の発行をサポートすることも期待される。

（９）森林管理署と地域住民の関係について

森林管理署と地域住民との間の良好な信頼関係は、事業への住民参加を促すうえでも非常に重要である。しかしながら現状における両者の関係は、非常に希薄であるか、もしくは場所によっては良好とはいえない状況にある。村落事業から得られた住民の森林管理署に対する意識として以下のものが挙げられる。

- 焼畑に関してお金を徴収されたが、他村では取られていない様子で不公平である
- 林木の無許可伐採によって刑務所に送られそうになった（実際は森林管理署に来て手続きを踏まなければならないと職員が説明したことを、住民側が誤解していたことが後に判明）
- 森林官がパトロールに散発的に来ているが、村を素通りして行くので話したことは無い（接触したことはない）
- 山火事があっても森林管理署はすぐに来てくれない（そのため延焼につながった）

特に焼畑の徴収金に関しては場当たりの対応をされていると住民側は感じており、この点に関して統一的な対応をしない限りは、森林官に対する信頼意識は生まれないと考えられる。

（１０）地域特性について

コンスタンサ近隣の一部地域では、他地域と比較して団結意識への低さが村落事業の結果から予想される。これは同地域の多くの住民が日雇い農業従事者であるために、日常の経済活動が非常に個別化しており、組織として団結するメリットを感じづらい状況にあることが原因と考えられる。そのため同地域では他地域よりもさらに生活改善、生計向上といった側面の活動を増やし、それらの活動と並行しながら流域管理の諸活動を進行させることが重要である。

なお、この生活改善、生計向上の活動の増やし方に関しては、定型のクライテリアを設けることは実質的に不可能であり、事業実施者が村落ごとの個別な社会状況から判断して実施する以外に無い。また留意すべき点としては、隣村同士で明らかに異なる生計向上活動をすれば、村落内に不公平感が鬱積するため、同一地域内ではある程度同様な生計向上活動を実施することが望ましいと考えられる（（５）「住民に付与するインセンティブについて」参照）。

（１１）評価ワークショップについて

評価ワークショップはそれまでの活動状況を振り返り、かつ新たな活動計画を策定するため、非常に重要な活動と位置づけられる。ワークショップの実施要領は以下のとおりである。

評価ワークショップ	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動状況の見直し ● 見直しをベースとして次年度の計画策定を実施 ● 参加が芳しくなかった住民の参加機会の創出

実施形態	<ul style="list-style-type: none"> 計画策定・モニタリングワークショップと同様のマトリックスを利用
実施者	<ul style="list-style-type: none"> 住民自身がファシリテータとなることが理想 NGO 等がサブファシリテータとして補助
実施時期	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施 1 年後
実施内容	(評価) ① 実施したこと & 実施できなかったこと (& 最も興味を持った活動) ② 実施阻害要因 ③ (その阻害要因から) 学んだ教訓 (再計画) ① (上記を見直したうえでの) 新たな活動 ② 達成時期 ③ 担当者
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップでは住民同士のディスカッションを重要視すること。特に一部の積極的参加者のみの声を聞くのではなく、参加が滞った人々の声を合わせて聞くことが大切である 次年度の再計画に関しては、事業継続の方法、さらには事業継続の住民間の意思確認までを含めて実施することが重要である 本ワークショップはこれまで参加が芳しくなかった住民の参加を促すきっかけ作りとなることも考慮して、祭りのイベント性を持たせることとする 事業実施の区切りと位置づけられる重要なワークショップであるため、業務実施者側の関係者もオブザーバーとして参加する

(12) 社会インフラ誘致のプロセスについて

村落における社会インフラ整備に対するニーズは非常に高いが、流域管理計画事業の中で対応できる社会インフラの整備にはおのずと限界がある。そのため打開策としては、住民組織自身が政府の各種機関に対して社会インフラ整備の申請を行ない、事業実施者はその活動に関する情報の提供、申請書の代筆、サントドミンゴでの提出等々の面で側面サポートすることが考えられる。これらの住民自身による主体的活動は、住民組織の強化にも繋がるものであり、事業実施者としては積極的にサポートすることが求められる。

以下では社会インフラ整備の申請に際しての手順の一例を、村落事業実施村落であるロスフリオスの診療所のケースを例として記載する。

- ① 住民組織として政府機関である「PRO-COMUNIDAD パドレ・ラス・カサス支部」に対して、診療所建築の申請を行なう (2001 年 3 月)。
- ② 申請内容は単純な形式であり、住民自身で申請可能。
- ③ 「PRO-COMUNIDAD パドレ・ラス・カサス支部」内において、他村からの代表者も集めて申請内容についてのインタビューが実施される。
- ④ インタビューでは、何故診療所が必要なのか、村での他のニーズとの優先順位はどうか

っているのか等が聞かれた（その際、ロスフリオスでは PRA 村落ワークショップにおいてニーズランキングを行なっていたので、非常にスムーズに他のニーズとの位置関係を述べる事が出来たとのこと）。

- ⑤ 「PRO-COMUNIDAD」内での審査に合格。診療所建築が決定。なお当然ながら失格する村もある。
- ⑥ 診療所建築の際の労働力は政府派遣される労働者とともに、地域住民も参加する（2001 年 10 月建築開始。現在建築中）。

3-2-3 住民組織発展期

事業活動の継続を通して、住民組織はさらに強固な住民組織に変化してゆくことが期待される。住民組織は周辺村との連携を取りながら、新たな組織の発展形態を模索することが可能となる。下記にその一例としての Federacion への発展について述べる。

（13）Federacion への申請プロセスについて

Federacion とは政府の認可を受けた組織を意味しており、NGO として活発な活動を行なっている組織や、地方において自分達の村だけに焦点を当てた住民組織も存在する。Federacion のメリットは政府からの補助金を受けられる点であり、対象地域の住民組織が目標とすべきひとつの組織形態と考えることができる。以下では住民組織発展形としての Federacion へのプロセスを記載する。

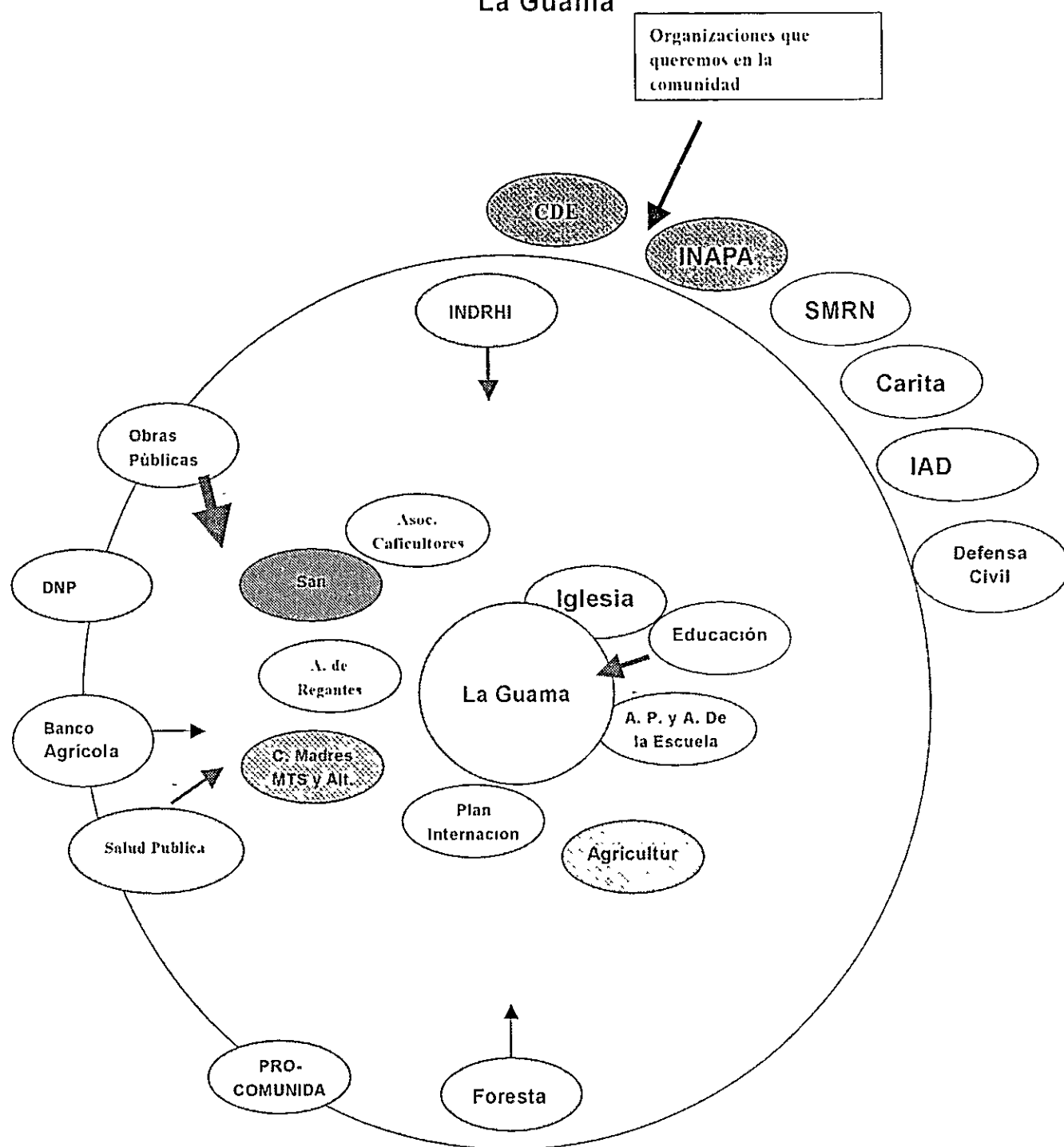
- ① 住民組織内において役員会を設置する
- ② 年間活動計画を作成
- ③ 活動計画を大統領府もしくは関係省庁（年間活動計画の主要な内容が農業であれば農業省、環境分野であれば環境省）へ提出
- ④ 関係省庁で審議---承認
- ⑤ 承認後、住民組織は毎月活動報告書を提出
- ⑥ 年間活動計画の作成、および申請手続きは毎年必要

* 政府機関 ONAPLAN(Oficina Nacional de Planificacion)にて活動計画作成内容などについて相談を受け付けている

* 2002 年 12 月時点で環境省経由での Federacion に対する補助金はない（殆どが農業省経由となっている）

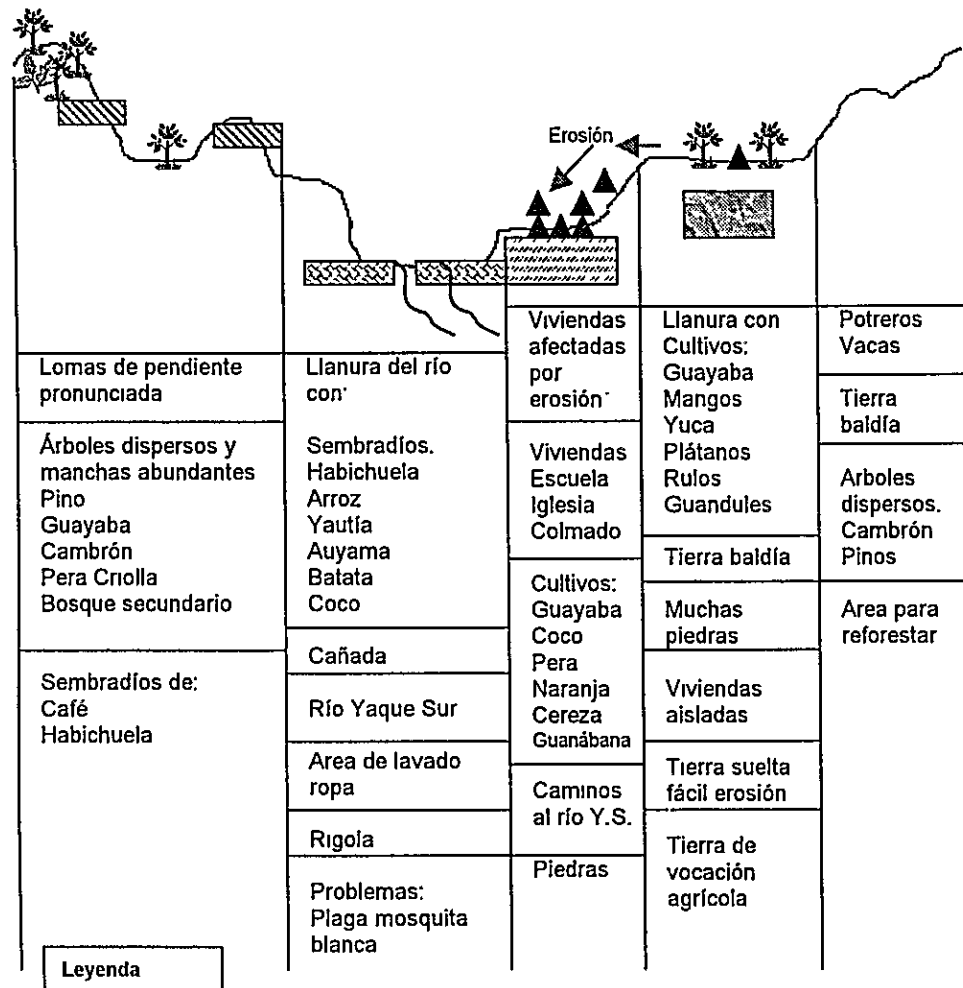
APPENDIX

Análisis de la relación organizaciones-comunidad en La Guama



Appendix2 組織関係図 (La Guama)

TRANSECTO DE LA GUAMA



Appendix3: トランセクトウォーク (La Guama)

Historia de la Comunidad de La Guama

Fecha estimada de Fundación	Según estimaciones, la Guama fue fundada hace más de 100 años, hacia 1880-90.
Origen del Nombre	Hay dos versiones, unos dicen que el nombre proviene de que originalmente había muchos árboles de Guama en la zona, y de ahí obtuvo el nombre. Otros dicen que el nombre se debe al azar, sin causa especial.
Primeros Habitantes	Unas siete personas fueron identificadas: 1. Norberto de la Rosa, proveniente de Arroyo Cano. Se dedicaba a la siembra de rulo, plátano, yuca, habichuela, arroz, batata, maíz y yautia; criaba cerdos y chivos. Su esposa, Polonia de la Rosa, era hija de Blas de la Rosa y nació en La Guama. Se dedicaba a los oficios domésticos y ayudaba al esposo en la crianza de los animales. 2. Blas de la Rosa, procedente de Junumuco de Jarabacoa. Se dedicaba a la siembra de los mismos productos que Norberto de la Rosa; tenía apiarios. Su esposa era Eugenia Galva y provenía de Los Melones. Se dedicaba a los oficios domésticos. 3. Fermín de la Rosa, procedente también del Cibao. Sembraba los mismos productos que el anterior y criaba los mismos animales. Su Esposa era Itelia Reyes, nacida en La Guama. Se dedicaba a los oficios domésticos. 4. Pedro Blanco de la Rosa, también del Cibao. Tenía un trapiche para moler caña y también sembraba y criaba los mismos animales que los anteriores. Su esposa era Colatica Cabral proveniente de Los Melones. Se dedicaba a oficios domésticos. 5. Faustino Reyes, proveniente de la Piedra de San Juan. Sembraba los mismos productos que los anteriores y también criaba abejas. Su esposa era Nicó de la Cruz, de Los Naranjos. Se dedicaba a oficios domésticos. 6. Matías Reyes, no se sabe de donde provenía. Sembraba los mismos productos que los anteriores, pero además criaba vacas. Su esposa era Silveria Galván, proveniente de Arroyo Cano. Se dedicaba a oficios domésticos. 7. Mauricio Rodríguez Pallardo, de origen inglés, antes de asentarse en La Guama pasó por Bánica, donde se casó con Lela Mora y la trajo a vivir a esta comunidad hacia 1925. Se dedicaba a la carpintería y se le reconoce como el constructor de los ingenios de la zona.
Razones por la cual los	Entre las principales razones por las cuales los primeros pobladores dejaron sus comunidades para venir a

Historia de la Comunidad de La Guama

primeros pobladores vinieron a La Guama	establecerse en la zona de La Guama están:	
	<ul style="list-style-type: none"> • Que la tierra era buena para la agricultura (arroz) • Que era una zona tranquila y de facilidad para trabajar la tierra • Que había muchos árboles 	
Localización original de la comunidad de La Guama	La comunidad se mantiene en el mismo lugar donde se fundó originalmente, solo ha habido cambios en el orden de algunas infraestructuras o negocios, tales como la escuela y el colmado, que han cambiado de sitio.	
Cambios significativos ocurridos en el tiempo y razones de los mismos	Cambios	Razones
	Había muchos árboles, ahora hay menos	La causa son los ciclones, la tala de árboles, los fuegos intencionales y la falta de agua. También por la necesidad de la gente, ya que se vive de la agricultura y hay que buscar tierra para sembrar.
	Hay más inundaciones ahora	Por la desaparición de los árboles y por la desaparición de las norias o cabezas de los ríos, fruto de los ciclones y huracanes, que tapan o explotan las norias de los ríos y estos se desplayan cuando hay lluvia.
	Antes había muchas aves, como cotorras, cuervos, pericos, carrao. También habían peces en el río, jaiba, camarones, morón y anguilas.	Las aves han disminuido por que la gente las captura para comérselas y venderlas. Por otra parte los ciclones, especialmente el George, hizo mucho daño a los animales. Los ciclones son la causa de que no haya peces en el río.
	Los ríos tenían más agua que ahora	Los ciclones han afectado los ríos y ahora hay menos árboles. La agricultura también ha contribuido a que los ríos tengan menos agua, ya que ha producido deforestación.
Cambios significativos ocurridos en el tiempo y razones de los mismos	Llovía mucho más que ahora	Antes habían más árboles y ahora el exceso de calor de la tierra hace que las nubes se desbaraten.
	Cambios	Razones
	Todo lo que se sembraba producía mucho más que ahora	La falta de lluvia es una de las causas de este cambio. Además ahora existen muchas plagas de insectos que dañan los productos agrícolas. La tierra está cansada, solo se produce muy poco.

Historia de la Comunidad de La Guama

	La erosión de la tierra se ha incrementado	Los efectos de los ciclones y huracanes, que arrastran la capa vegetal. También esto es producto de la tumba de árboles sin control. Los fuegos han contribuido y por otra parte, la falta de agua para riego obliga al campesino a cortar los árboles para sembrar.
		Ahora se producen más fuegos que antes
Hechos sobresalientes que ocurrieron en la comunidad	1940	Se abrieron los primeros caminos para transitar a pie y a caballo o mulo y en 1982-86 se habilitó el camino para vehículos.
	1956	Se construyó la primera escuela, que luego fue remodelada en dos ocasiones
	1965	Se construyó la primera rigola para regar los cultivos agrícolas
	1970	Hace más de 50 años tenían un lugar para realizar las misas al que llamaban iglesia, pero no era propiamente tal. Una iglesia formal se construyó en 1970 y luego fue remodelada.
	1979	Ciclón David, afectó mucho la agricultura y las casas (acabó con todo).
	1994	Se construyeron letrinas en el marco de un proyecto comunitario, con fondos de la FIA y de E. León Jiménez
	1996	Se construyeron seis llaves públicas en la comunidad
	1997	Se inició la plaga de la broca del café y en 1999 pasó la broca al guandul
	1998	Huracán George, fue muy destructivo y "acabó con todo".
		La falta de conciencia de las personas es una causa de los fuegos. Otra es la práctica de la quema para la agricultura, que genera fuegos accidentales. Se mencionó la práctica de trabajar en "zonas" que son grandes extensiones de terreno donde unos 100 hombres la rodean para sembrar; para preparar dicha tierra se prende fuego y accidentalmente se puede pasar a otra zona donde hay yerba seca crecida y así se propaga el fuego. Se resaltó que en la Guama no se producen fuegos intencionales y que la mayoría de los fuegos se producen en las lomas próximas al parque nacional José del Carmen Ramírez y por personas que no son de la Guama. Dicen utilizar el fuego en la agricultura por que no tiene maquinarias para arar la tierra y carecen de regadío y de otras fuentes de empleo.

Historia de la Comunidad de La Guama

Problemas que tenían antes	<ul style="list-style-type: none"> • Carecían de medios de transporte y de caminos vecinales para sacar los productos agrícolas. • La represión Trujillista afectó los pobladores, se generaban problemas con las declaraciones tardías y también con la expedición de cédulas. Los que no eran declarados luego no podían obtener cédulas y eran perseguidos por carecer de dicho documento.
----------------------------	---

Problemática y Alternativas en La Guama del Yaque del Sur

Problemas	Alternativas	Organizaciones a involucrarse
1. No hay trabajo ni fuentes de trabajo para hombres ni mujeres	Generar fuentes de empleo	Diversas organizaciones y personas
2. Un sistema de riego para la tierra de secano (bomba)	Impulsar agua por bomba o por gravedad	INDRHI
3. No tienen energía eléctrica	Gestionar la instalación del servicio	CDE
4. La escuela solo llega a 4to. Curso y hay un solo profesor para 120 alumnos. Los alumnos de 5to en adelante deben recorrer 7 km para ir a la escuela.	Llevar la escuela hasta 8vo Y contratar dos nuevos profesores.	Secretaría de Estado de Educación
5. Las casas están en malas condiciones, necesitan letrinas y hay que construir casas nuevas.	Programa de reparación y construcción de viviendas y letrinas.	Ayuntamiento, Gobernación, Pro-Comunidad y otras organizaciones.
6. El camino hacia la Guama está en malas condiciones.	Gestionar la reparación del camino.	Secretaría de Estado de Obras Públicas y el Ayuntamiento
7. Necesitan reforestar muchas áreas.	Establecer viveros de café, cacao y de árboles frutales y maderables.	Subsecretaría de Recursos Forestales.
8. La clínica rural está muy lejos de la comunidad y no tienen dinero para comprar recetas.	Solicitar ayuda para medicamentos y la construcción de una clínica rural.	Secretaría de Estado de Salud Pública, Gobernación, Ayuntamiento
9. No tienen títulos de sus tierras	Solicitar el establecimiento de asentamientos del IAD	Instituto Agrario Dominicano
10. No tienen medio de transporte en la comunidad	Adquirir o solicitar un transporte comunitario.	Ayuntamiento
11. Necesitan realizar crianza de animales bajo cerca y establecer cría de abejas, como alternativas de ingresos.	Gestionar ayuda para programas de crianza de animales y apiarios.	Diversas organizaciones comunitarias.

Appendix 5 : ニーズランキング (La Guama)

Plan de Trabajo de Las Lagunas

Expectativas comunitarias con relación al problema	Limitaciones presentes y futuras para enfrentar el problema	Actividades que deben realizar para lograr expectativas y enfrentar limitaciones	Tiempo	Responsables
Construir un vivero comunitario más grande, con capacidad para 100 mil plantas.	<p>Animales dañan plantas vivero. Hay que construir cerca</p> <p>Ubicación actual del vivero es inadecuada para su expansión.</p> <p>Hay que controlar plagas</p> <p>El lugar seleccionado para ampliar el vivero necesita instalación tubería para riego</p> <p>No tienen materiales para agrandar vivero.</p> <p>No toda la comunidad está participando en manejo del vivero.</p>	<p>Hacer un listado de materiales necesarios para ampliar vivero. Cuantificar costos.</p> <p>Gestionar los materiales necesarios identificados</p> <p>Identificar mano de obra de la comunidad dispuesta a trabajar en ampliación vivero.</p> <p>Motivar y elaborar listado personas de la comunidad a involucrarse en actividades del vivero</p> <p>Recibir asistencia técnica para control plagas</p>	<p>15 julio</p> <p>15 al 30 julio</p> <p>Agosto</p> <p>Antes del 10 de Julio</p> <p>Junio a Septiembre</p>	<p>Ramón y Felipe</p> <p>Ramón y Felipe</p> <p>José Altagracia y Conrado</p> <p>Luis y Ramón Cuello</p> <p>Chenco y Frank</p>
<p>Diversificar el tipo de plantas del vivero, incluyendo otros frutales y otros maderables. Actualmente tienen.</p> <p>Lechoza, Chinola, Cedro, Caoba y Leucaena.</p> <p>Desean tener: Limones, Zapote, Aguacate, China, Cacao, Mango, Granadillo, Tamarindo, Guanábana, Melocotón, Pino y Roble.</p>	<p>No tienen semillas ni plantas en cantidad deseada ni del tipo deseado.</p> <p>Fertilidad de algunas semillas ha sido mala</p>	<p>Gestionar más plantas y semillas de aquellas especies que no puedan conseguir semillas en la comunidad</p> <p>Hacer normas para coleccionar y manejar semillas.</p> <p>Hacer normas para manejo del vivero</p>	<p>Agosto</p> <p>Julio</p> <p>Julio</p>	<p>Evangelina, Polín y Sucre</p> <p>Jessenia, David Vicente y Bartolo</p> <p>Santo y Tagó</p>

Appendix 6 : 計画策定ワークショップ (Las Lagunas: 苗畑について)

Plan de Trabajo de Las Lagunas (Monitoreo)

Trabajo Realizado (+) / No Realizado (-)	Obstáculos para realizar el trabajo	Lecciones aprendidas	Cosas nuevas/necesarias para ser realizadas	Responsables y fechas
Se elaboró listado de materiales que necesitan			Promover viveros pequeños o familiares	Elidio y Felipe De ahora en adelante (julio en adelante)
Se cuantificaron los costos de los tubos para llevar agua al vivero: 100 tubos a 85 pesos, RD\$8,500.00			Gestionar tubos que necesitan con la iglesia o instituciones amigas. Una vez conseguidos ampliarán vivero (95 tubos)	Mingo y Sucre Julio en adelante
No se han conseguido los materiales	Se esperaba que el proyecto supliera los materiales a la comunidad	La comunicación debió ser más clara con la comunidad. La comunidad debe ser más autogestionaria	Gestionar materiales en la comunidad palos, pencas, alambre. Harán reunión en la comunidad para coordinar la búsqueda de estos materiales para acondicionar vivero.	José Castillo y Luis, después de tener los tubos
Se motivó a persona para involucrarse en el vivero y se hizo listado con 25 interesados		La invitación a persona es mejor que las reuniones, las personas no les gusta asistir a reuniones.	Seguir motivando persona a persona	Ramón y Milquiades, después de tener los tubos.
No se buscó ayuda en control de plagas	Los responsables no estaban presentes	En el futuro, tener un sustituto que pueda hacer el trabajo. Se debe además identificar un responsable de recordar a todos los demás lo que hay pendiente por hacer.	Buscar apoyo para control de plagas. Visitar el vivero hoy mismo con Fernando, de CEPROS para orientación sobre las plagas.	Sucre y Carlitos Abreu Hoy.
No se han gestionado plantas fuera de la comunidad	Se esperaba que el proyecto supliera semillas que no hay en la comunidad. Solo se trajeron algunas plantas de limón	La comunicación debe ser más clara con la comunidad, para que no se creen falsas expectativas	1. Intercambiar plantas o semillas con otras comunidades. Llevar el tema a la reunión de líderes. 2. Gestionar información sobre el Programa Nacional de Frutales. 3. Hacer carta al Sr. Alberto Paniagua, Encargado de Foresta en Padre las Casas, para solicitarles plantas.	Ramón Galván y Luis. 13 de agosto. Frank y Chéncho, de agosto en adelante. Luis y Ramón verán plantas disponibles, informarán a la comunidad y se decidirá fecha siembra y se hará carta de solicitud.
No se han hecho las normas del vivero	El vivero es muy pequeño y no necesitan las normas aún		Hacer normas cuando vivero esté más grande	Santo y Tagó, cuando vivero esté más grande
La comunidad colectó semillas de limón, naranja, tamarindo, chinola y lechoza	Nota: solo pocos colectan semillas, van por etapas, no pueden colectar más por ahora		Continuar colectando y entregar a Jessenia, David, Vicente y Bartolo	

Appendix 7 : モニタリングワークショップ (Las Lagunas: 苗畑について)

